

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第3区分

【発行日】平成17年9月29日(2005.9.29)

【公開番号】特開2005-118994(P2005-118994A)

【公開日】平成17年5月12日(2005.5.12)

【年通号数】公開・登録公報2005-018

【出願番号】特願2004-328109(P2004-328109)

【国際特許分類第7版】

B 2 4 D 3/06

B 2 4 D 3/02

【F I】

B 2 4 D 3/06 A

B 2 4 D 3/02 3 1 0 A

【手続補正書】

【提出日】平成17年7月8日(2005.7.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

約20～2500μmの範囲の均一な幅を有する、平形の砥粒強化研磨ディスクからなる砥石であり、約2.5～50vol%の砥粒、ならびに焼結の際に砥粒と化学結合を形成し、金属成分と活性金属とを含む、補充的量の結合剤から本質的になり、少くとも150GPaの弾性率値を有する砥粒強化研磨ディスクを製造するのに有効な量で存在する、砥石。

【請求項2】

金属成分が銅、スズ、コバルト、鉄、ニッケル、銀、亜鉛、アンチモン、マンガン、炭化金属およびそれらの少くとも2つの合金からなる群より選ばれる請求項1記載の砥石。

【請求項3】

活性金属がチタン、ジルコニアム、ハフニウム、クロム、タンタルおよびそれらの少くとも2の混合物からなる群より選ばれる請求項1記載の砥石。

【請求項4】

均一な幅および約20～6000対1のアスペクト比を有する、平形の砥粒強化研磨ディスクからなる砥石であり、約2.5～50vol%の砥粒、ならびに焼結の際に砥粒と化学結合を形成し、金属成分と活性金属を含む、補充的量の結合剤から本質的になり、少くとも150GPaの弾性率を有する砥粒強化ディスクを製造するのに有効な量で存在する、砥石。

【請求項5】

約20～2500μmの範囲の均一な幅を有する、平形の砥粒強化研磨ディスクからなる砥石と、工作物を接触させる段階を含む工作物の切削方法であり、砥石は約2.5～50vol%の砥粒、ならびに焼結の際に砥粒と化学結合を形成し、金属成分と活性金属とを含む、補充的量の結合剤から本質的になり、少くとも150GPaの弾性率値を有する砥粒強化研磨ディスクを製造するのに有効な量で存在する、方法。